

「海外訪ね体験広げて」

作家・高野秀行さん
熊本高専などで講演

「高校生のための文化講演会」が28日、合志市の熊本高専熊本キャンパスと熊本市中央区の熊本信愛女学院高であり、ノンフィクション作家の高野秀行さん(56)「東京都」が海外を訪ね、現地で体験することの重要性を説いた。

高野さんが文筆活動を始めたのは早稲田大在学中。「誰も行かない所へ行き、誰もやらないことをやり、面白おかしく書く」ことを心がけ、アフリカ東部ソマリリアを舞台にした「謎の独立国家ソマリランド」は講談社ノンフィクション賞を受賞した。

熊本高専では2年生約260人を前に、大学の探検部時代に謎の生物「ムベンベ」を探しにアフリカのコンゴを訪ねた体験を披露。ムベンベ発見には至らなかったものの、村民の生活や湿地に住むゴリラなどの生物について発見があったとして「物事は一面しか報告されていないことが多い。現地に行くからこそ分かることがあり、体験した人間が強い」と強調した。

その上で、「一番手っ取り早く体験を広げられるのは外国を訪れること。自力で行くのは大変だけど発見は大きい。自分の力を拡張すると思っ指してほしい」と呼びかけた。

講演会は熊日と公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会の主催。文科省、県教委、集英社が後援した。
(元村彩)



熊本高専熊本キャンパスの2年生に「外国に行って体験を広げてほしい」と呼びかけるノンフィクション作家の高野秀行さん=28日、合志市